

地域創生学群チャレンジプログラムによる教育効果の分析とアントレプレナーシップ教育への示唆

片岡寛之

1. はじめに

1-1 研究の背景

ここ十数年の期間、全国各地の大学において、いわゆる「地域系」と呼ばれる学部学科の開設が目立っている。本学地域創生学群は2009年4月に開設した地域系の学部であり、その草分け的存在といっても過言ではない。地域創生学群は、地域の再生と創造を担う人材の育成を目的としており、「実践と理論の両立」を教育理念に掲げている。そのため、1年次から、様々な実践活動（指導的実習、地域創生実習）を必修科目として、2～3年次においても同様の位置付けで実践活動（地域創生実習、地域創生実践）を課している。

加えて、2015年度から「地域創生学群チャレンジプログラム（以降、チャレプロ）」という超実践型のプログラムをスタートさせ、地域創生学群における実践型教育プログラムの柱の1つに位置付けている。筆者はチャレプロの担当教員として11年間にわたって運営を担っており、同プログラムの教育効果等について、地域創生学研究¹⁾²⁾にまとめている。

また、わが国では10年ほど前から「アントレプレナーシップ」が注目されるようになり、文部科学省において「アントレプレナーシップ教育」の全体像がまとめられ、それに関する様々な施策が実施されるようになった。その流れを汲む形で、本学でも今年度より全学部・学群の1～4年生を対象とした「アントレプレナーシップ教育プログラム（以降、アントレPG）」がスタートし、筆者もその運営を担っている。

上述した全体像の中で、文部科学省は、“アントレプレナーシップを「急激な社会環境の変化を受容し、新たな価値を生み出していく精神」と捉え、自ら社会課題を見つけ、課題解決に向かってチャレンジしたり、他者との協働により解決策を探求したりすることができる知識・能力・態度を身に付ける教育をアントレプレナーシップ教育（以下、「アントレ教育」）”³⁾と位置付けている。これは、地域創生学群における教育方針や、チャレプロで求められるマインドとも親和性が高い内容だといえる。

以上を踏まえると、アントレPGの効果的な運営や質の担保を図るために、チャレプロを通じた教育効果に関する知見が活かせると考えられる。加えて、次世代を担う主体的な人材の育成という観点で、地域への貢献に一役買うことができるのではないだろうか。

1-2. 研究の目的

本研究では、2021～2025年度の期間にチャレプロに挑戦した卒業生および現4年生を対象としたアンケート調査を実施し、チャレプロを通じた教育効果について分析すること、それらをもとにアントレPGへの示唆を得ることを目的とする。

1-3. 調査及び分析手法について

本研究では、チャレプロ 6-10 期生を対象としたアンケート調査結果をもとに、チャレプロを通じた教育効果について分析を行う。アンケートの概要を表 1 に、質問項目一覧を表 2 に示す。

アンケート結果の分析にあたり、選択式のものについては単純集計によって特徴を把握し、記述式のものについては、テキストマイニングによって分析を行うものとする。

具体的には、樋口⁴⁾が開発した文章型データを計量的に分析するためのフリーソフトウェア KH Coder version3.Beta.04a^{5) 6)} を利用し、頻出単語の集計結果、言葉同士の繋がり方を描く共起ネットワーク等をもとに、実際の記述内容から読み取れる特徴を把握する。

表 1：アンケート調査の概要

調査期間	2026年2月19日（木）～3月1日（日）
調査対象	チャレプロ6～10期生（2020年度3年生～2024年度3年生）52名
調査方法	Googleフォームによる選択・記述式アンケート
有効回答数	30名

表 2：質問項目一覧

	質問内容	備考
	氏名/所属/業務概要	
1-1	チャレプロに参加を決意した理由は何でしたか？	記述式
1-2	今チャレプロを振り返り、一番の学びや気づきは何だったと思いますか？	記述式
1-3	今振り返ってみて、チャレプロをやってよかったと思いますか？	10段階選択式
1-4	その理由を教えてください。	記述式
1-5	チャレプロの経験や、学び気づきは、今に影響を与えていると思いますか？	10段階選択式
1-6	そう思う理由を教えてください。（思うの方は、具体的なところまで教えてください）	記述式
1-7	チャレプロを先輩に進めたいと思いますか？	10段階選択式
1-8	そのように答えた理由を教えてください。	記述式
1-9	チャレプロの説明を先輩にする状況だとします。特徴を3つ挙げるとすると何だと思いますか？	記述式
1-10	ご自身にとって、チャレプロはどんな場でしたか？	記述式
2-1	チャレプロ前後で、働くことについてのイメージは変わりましたか？	10段階選択式
2-2	チャレプロ後、働くことに対してどのように思うようになりましたか？	10段階選択式
2-3	チャレプロを通して、働くことへの考えは何がどのように変化しましたか？	記述式
2-4	変化のきっかけは何だったと思いますか？	記述式
2-5	チャレプロを通してどのように働きたいか、将来像に変化はありましたか	10段階選択式
3-1	チャレプロを通して、自分は成長したと思いますか？	10段階選択式
3-2	上記のように答えた理由を教えてください	記述式
3-3	チャレプロを通して、自分のどんな力が伸びたと思いますか？※自由記述、○力に造語で結構です。	記述式
3-4	チャレプロを通して、自身の「失敗する力」は向上したと思いますか？ ※失敗する力：失敗した時の対応力（落ち込み続けるのではなく、学びに変える力。回復力。）	10段階選択式
3-5	チャレプロを通して、自身の「当事者創造力」は向上したと思いますか？ ※当事者創造力：目の前の出来事に対し、批判や愚痴ではなく、どうしたら良いか自ら考え、提案、行動する力	10段階選択式
3-6	チャレプロを通して、自身の「言語化力」は向上したと思いますか？ ※言語化力：自分の感情や想いを言葉にする力。	10段階選択式
3-7	チャレプロを通して、自身の「やり抜く力」は向上したと思いますか？ ※やり抜く力：上手くいかないことや、評価されないことがあったとしても、それから逃げず、向き合い最後までやり通す力。業務遂行力	10段階選択式
3-8	チャレプロを通して、自身の「巻き込む力」は向上したと思いますか？ ※巻き込む力：手伝ってくれる人をつくることのできる、人を頼るなど	10段階選択式
3-9	今の人生に、チャレプロの経験は活かしていますか？	5段階選択式
3-10	上記のように答えた理由を教えてください	記述式

1-4. 地域創生学群チャレンジプログラムとは

チャレプロは2015年から3年生向けにスタートさせた実践プログラムである。起業トライアルプログラム（以降、起業トライアル）とリアル就職プログラム（以降、リアル就職）という2つのプログラムで構成されている。これまでの11年間で合計103名（起業トライアル32名、リアル就職71名）の学生がチャレプロに挑戦した。

起業トライアルは、自分で考えた事業を長期間に渡って実施するというもので、実施期間の目安は3年次の5月から1月までの約9ヶ月間である。このプログラムの大きなポイントは、すべてオウリスクで実施するという点で、受講生は事業に必要なあらゆるリソースを自ら集め、事業を実施することになる。これまでの実践事例としては、週末限定のカフェやBAR営業が多く、地域との協働事業や大規模イベントの運営、各種啓発事業を実施、サブスクリプション形式でのオンラインサービス、映像制作、手作り雑貨販売やネイルサロンなど、様々である。

リアル就職は、いわゆる長期インターンシップで、受入企業・団体等で週3-4日のフルタイム勤務を行うものである。実施期間の目安は3年次の9月から2学期終了時までの約5ヶ月間であり、休学せずに挑戦できる点が大きな特徴である。これまでの間、合計約40社に学生を受け入れていただいた実績がある。受入先の業界や業種は様々で、その所在地も北九州市内だけでなく、札幌市や女川町などの遠隔地もあるなど、幅が広い。

なお、本プログラムの運営にあたっては、熊本県内を中心とした実践型インターンシップの企画運営事業を行っている（一社）フミダスさんに業務委託して、受講生向けの研修をはじめとした各種サポートを担っていただいている。具体的には、インターン開始後1ヶ月のタイミングで実施する1ヶ月後研修、中間地点で実施するギアチェンジ研修、終了後に実施するクロスロード研修などで、これらの機会を通じて受講生たちは、実践に対する振り返りを行い、経験の言語化を行うことができる。このような充実したサポート体制も本プログラムの魅力の1つである。

1-5.アントレプレナーシップ教育プログラムとは

アントレPG⁷⁾は、変化の激しい社会において、主体性発揮しながら新しい価値を創造できる人材など、地域や社会の未来を担う人材の育成を目的として、2025年4月からスタートした。副専攻プログラムのように単位化されておらず、本学の全学部・学群の学生が自由に登録できるプログラムである。いわゆるアントレプレナーの育成というより、実社会の様々な場面で求められるそのマインドの醸成を図ることを重視している。

本プログラムは、①INPUT（知識やマインドのインプット）、②OUTPUT（アイデアを形にする・実際にやってみる）、③SUPPORT（学びと挑戦のサポート）、④NETWORK（様々なつながりを生み出す場の創出）、という4つの側面で構成されている。

受講生はINPUTとOUTPUTのメニューをそれぞれ1つ以上達成した上で、本人が希望すれば、所定の手続きを経て、修了認定を受けることができる。

2. チャレプロの捉え方について

2-1. チャレプロへの挑戦動機

まず、「チャレプロに参加を決意した理由は何でしたか？」という質問に対する、調査対象 30 名による記述式回答結果をテキストマイニングで分析した。記述内容における総抽出語は 784、異なり語数は 242 であり、頻出語をまとめると表 3 のようになった。抽出にあたっては、「社会人」を強制抽出する語に指定した。その結果、最も出現回数の多かった言葉は「自分」で、「学生」や「社会」という言葉がそれに次いで多いことが分かった。

表 3：“頻出語一覧（挑戦理由）”

出現回数	13	8	6	4
抽出語	自分	思う	学生+学生時代 社会+社会人	環境/経験/前 大学/挑戦/変える

次に、共起ネットワーク（図 1）をもとに、挑戦理由に関する考察を行う。

サブグラフ 01 には、最も出現回数の多かった「自分」が含まれており、「思う」や「変える」「挑戦」などの言葉と強い共起の線で結ばれていた。実際の記述には『自分を変えたかった。』『自分を試してみたいと思い参加を決断しました。』『自分に自信をつけたかったから』などのフレーズが見られた。また、サブグラフ 05 には、出現回数の多い「環境」という言葉があり、『せつかくなら大きく環境を変えて一步踏み出したいと思ったから。』『自分が初めての環境の中でどれほどできるのか試してみようと思ったこと』などの記述が見られた。

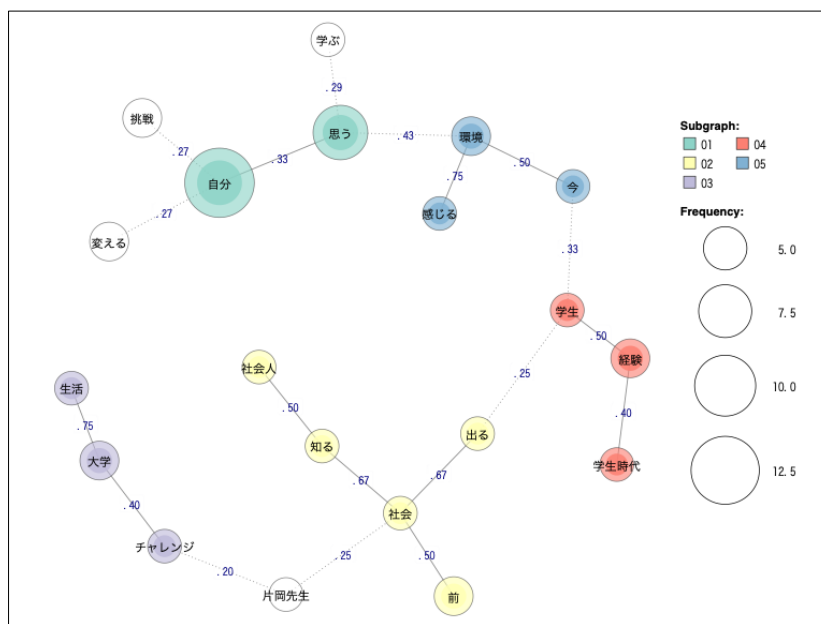
これらのことから、変化やチャレンジの場にしたい、環境を変えて自己成長させたいという明確な意思を読み取ることができ、それが挑戦の強い動機になっていると解釈できる。

一方、サブグラフ 02 には、出現回数が 3 番目に多い「社会+社会人」が含まれており、「出る」「前」「知る」という言葉と強い共起の線で結ばれている。実際の記述には『社会を出る前に社会を知っておく』『社会人とはどんなものか知りたかったから』といったフレーズが見られた。また、サブグラフ 04 では、「学生+学生時代」と「経験」が強い共起の線で結ばれており、実際の記述には『学生のうちに、外に出て他の学生にはない経験を得たかった』『学生時代に社会人としての経験を積むため』という内容が見られた。

これらのことから、学生のうちに社会人経験を積むことで社会を知りたいという興味関心が、挑戦の大きな理由の 1 つになっていると解釈できる。

以上を踏まえると、「変化やチャレンジの場にしたい」「自己成長させたい」「学生のうちに社会を知りたい」という 3 点がチャレプロ挑戦の主な動機になったと考えられる。

図 1：抽出語・共起ネットワーク（挑戦理由）



2-2. チャレプロを通じた学びや気づき

ここでは、「今チャレプロを振り返り、一番の学びや気づきは何だったと思いますか？」という質問に対する自由記述式回答結果をテキストマイニングで分析した。

まず、記述内容における総抽出後数は 672、異なり語数は 261 で、頻出語は表 4 に示すとおりとなった。最も出現回数の多かった抽出語が「自分」で、「社会」や「言葉」「思う」「大切」などの語がそれに次ぐ結果となった。

次に、図 2 に示す共起ネットワークをもとにして、チャレプロを通じた一番の学びや気づきに関して考察する。サブグループ 02 には、出現回数の最も多かった「自分」が含まれており、「今」や「気づく」と強い共起の線で結ばれている。実際の記述を確認すると、『今の自分をしっかり知ることができる』『自分が今何ができて何ができないのかがはっきり分かりました。』『自分より 100 倍賢い大人が自分以上に学んでいる姿を見てすごいよりやばいが芽生えました。』『自分の弱さに気づきました』『自分に得意不得意があり』といったようなフレーズが見られた。このことから、自分自身と向き合うことによる自己理解が、チャレプロを通じた学びだと捉えることができる。

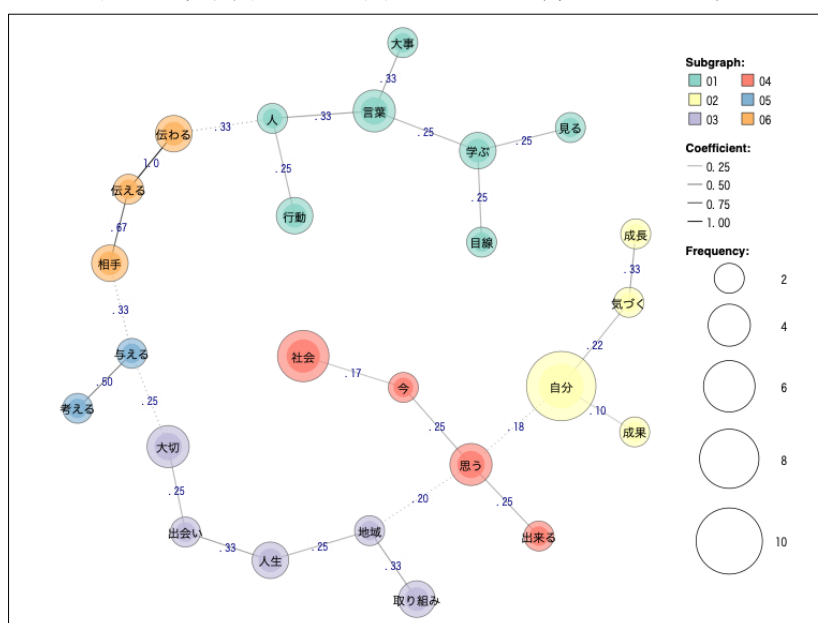
また、サブグループ 02 には「言葉」が含まれており、「大事」や「人」と強い共起の線で結ばれており、実際の記述では『言葉選びの重要性』『言葉選びを間違えると伝わらない』『言葉にするって大事』などのフレーズが見られた。さらに、サブグループ 03 には「大切」が含まれており、実際の記述では『信頼関係の大切さ』『顧客目線の大切さ』『一つ一つの出会いを大切にすること』などのフレーズが見られた。これらのことを踏まえると、言葉の重要性や相手目線で考えることの重要性などが、チャレプロを通じた気づきだという認識であることが分かった。

以上のことから、受講生にとっては自己理解が深まったこと、言語化の重要性を痛感したこと、信頼関係構築のために必要となる姿勢を学んだことなどが、チャレプロを通じた学びや気づきであることが分かった。

表 4：頻出語一覧（学びや気づき）

出現回数	11	6	4	3
抽出語	自分	社会	言葉／思う 大切	学ぶ／行動／取り組み 人生／相手／伝える

図 2：抽出語・共起ネットワーク（学びや気づき）



2-3. チャレプロに対する満足度

まず、「今振り返ってみて、チャレプロをやってよかったと思いますか？」という質問に対する回答結果（図 3）を見てみると、10 点満点（とても思う）が最も多く、全体の 66.7% を占めており、8 点以上を合わせると全体の 9 割を占めていることが分かる。このように、チャレプロに対する受講生の満足度は非常に高いと言える。

次に、その理由についての自由記述式回答結果をテキストマイニングで分析する。表 5 に示す頻出後一覧をみてみると、記述内容における総抽出語数は 1,133、異なり語数は 356 であった。出現回数が最も多いのは「自分」で「チャレプロ」や「経験」などがそれに次ぐ結果となった。

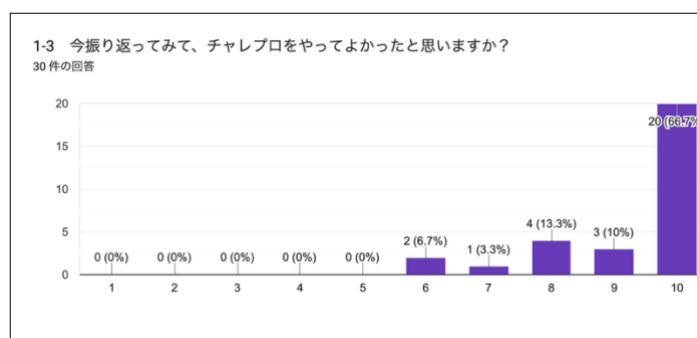
これらの頻出語が含まれた同種の記述として、『自分のダメなところも良いところもどちらも目に見えて分かった』『自分の強み弱みを明確化でき』『自分自身の世界が広がったから』『自分の現在地／課題感が見えてくるから』といったものがあり、自分自身と向き合う

ことで、自己理解が深まり成長を実感できたことが、チャレプロをやって良かったと思う主な理由の1つだと捉えることができる。

そのほか、『自分で事業をやってみる経験ができたから』『チャレプロを達成できた自分だからこその他の物事もきつうまくやれる、といった自己肯定感が生まれた』『自分自身の成長を強く実感できた』『自分にとってすごく財産になった』といったような記述もあったことから、自身にとっての財産となる経験ができたこと、挑戦を通じて自己肯定感や成長実感が得られたことも、やって良かった理由の1つだと考えられる。

以上をふまえると、受講生たちにとって、チャレプロをやって良かった主な理由は、「自己理解が深まるから」「財産となる経験ができたから」「自己肯定感や成長実感が得られるから」という3点だと捉えることができる。

図3：チャレプロをやって良かったと思うか



(思わない1 ← →10 とても思う)

表5：頻出語一覧（やって良かった理由）

出現回数	12	11	8	5	4
抽出語	自分	チャレプロ	経験	今/思う 社会	意識/環境/出会える 人生/良い

2-4. 受講生の現在に対する影響度

まず、「チャレプロの経験や、学び気づきは、今に影響を与えていると思いますか？」という質問への回答結果を図4にまとめる。集計結果を見ると、10点満点が最も多く、全体の56.7%を占め、8点（16.7%）や9点（10%）がそれに次ぐ結果となった。これらの結果を踏まえると、チャレプロが多くの受講生の現在に影響を与えていることが分かる。

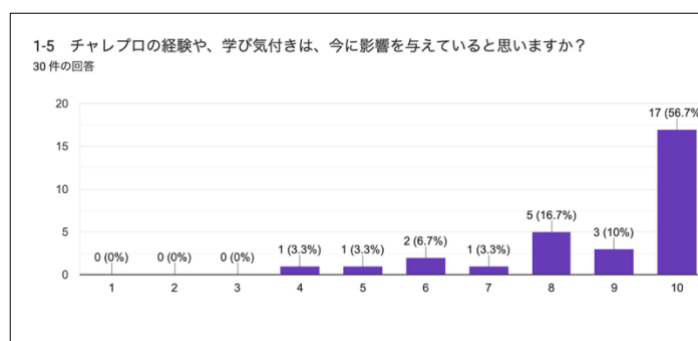
次に、そう思う理由に関する記述式回答結果をテキストマイニングで分析してみると、頻出語は表6のようになった。最も多かったのが「今」で、「自分」「チャレプロ」「経験」「思う」などがそれに次いで多かった。

これらの語を含む具体的な記述としては、『チャレプロでは映像制作をしていたが、それが今の仕事につながった』『チャレプロをしていなければできない業務を今担当しているか

ら』『地域の特性を学ぶきっかけになり、今の仕事にもつながっている』『それが今の学校事務業務に活かされている』『あの時の経験が今も役立っていると感じています』『共有文化の大切さは今の仕事に生きてる気がします』などが挙げられる。これらの内容から、チャレプロでの具体的な実践経験が、そのまま現在の仕事に役立っていると捉えている受講生が多いと考えられる。

また、『自分のダメなところに気づくことができ、今の仕事ではそこを少しずつ克服』『自分のキャリアに向き合うきっかけになった』『今の職場に固執しない生き方があると知っておくことは、自分の精神の健康にも良い』『実際の業務面での役立ちというよりは、むしろ考え方への影響が大きいように思う』というような記述も見られた。このように、仕事との向き合い方の面で影響を受けた受講生も多いようだ。

図4：チャレプロの経験は今に影響を与えているか



(思わない1 ← →10 とても思う)

表6：頻出語一覧（今に影響を与えている理由）

出現回数	17	12	9	7	6	5	4
抽出語	今	自分	チャレプロ 経験/思う	仕事	意識 変える	学ぶ	影響/感じる/業務 増える/働く

2-5. チャレプロを後輩に勧めたいと思うか

まず、「チャレプロを後輩に進めたいと思いますか？」という質問に対する回答結果を集計すると図5のようになった。最も多かったのが10点満点で全体の56.7%を占め、8点(26.7%)がそれに次ぐ結果となり、8点以上のかなりポジティブな反応が86.7%を占めるなど、チャレプロを後輩に勧めたいと思っている受講生が非常に多いことが分かる。

次に、その理由を自由記述で回答してもらった結果について、テキストマイニングで分析する。頻出語一覧を整理した表7を見てみると、「思う」が最も多く、「自分」がそれについており、「人」「学生」「社会」「得る」などの語も多いことが分かる。

頻出語が含まれる実際の記述を見てみると、『自分をより深く知る良い機会に絶対なるので』『自分の未熟さに気づけるから』『自分を見つめ直すきっかけにもなる』『自分の現在地

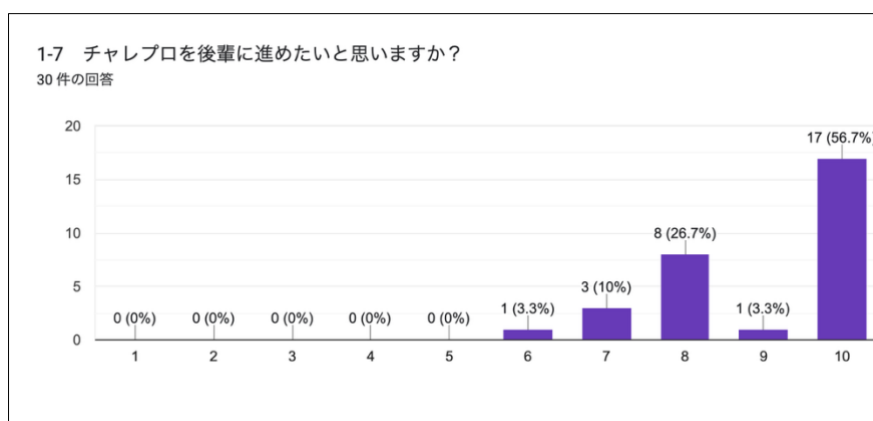
を知りたい人』『自分のことがよく分からない人には、必ず何かが掴めるはずだから勧めたいと思う』などの似通ったフレーズが見られた。このことから、チャレプロを通じて自己理解が深まる点が後輩に勧めたい主な理由の1つだと言える。

また、『やる気のある人は本当に変わる』『自信を持てるようになりたい人』『成長したいと思っている人』『消極的な自分をなおしたいけど勇気がないという人にはぜひ挑戦して欲しい』といった記述もあることから、お勧めしたい相手は、成長意欲を持つ人や自分を変えたいと思っている後輩だということが分かる。

そのほか、『学生のうちに』『学生時代に』『学生のときから』といったフレーズが多く、『大学生活の中だけでは経験できない』『学生時代になかなか経験できない』といったフレーズも見られた。つまり、今しかできない貴重な経験だということも、後輩に勧めたい理由の1つだと考えられる。

以上をふまえると、自己理解が深まる点や、今しかできない貴重な経験である点が、後輩に勧めたい主な理由で、特に、成長意欲を持つ後輩や自分を変えたいと思っている後輩に勧めたいと思っている受講生が多いことが分かった。

図5：チャレプロを後輩にすすめたいか？



(思わない1 ← →10 ととも思う)

表7：頻出語一覧（後輩に勧めたい理由）

出現回数	17	14	9	7	6	5	4
抽出語	思う	自分	人	学生	社会/得る	チャレプロ/プログラム 感じる	環境/先生 良い

2-6. チャレプロとは

まず、「チャレプロの説明を後輩にする状況だとします。特徴を3つ挙げるとすると何だと思えますか？」という質問に対する自由記述式回答結果をテキストマイニングで分析する。頻出語一覧を表8に示す。最も多かったのが「自分」で、「社会」「場」「挑戦」などの語がそれに次いで多かった。

「自分」含む具体的な記述を見てみると、『自分とたくさん向き合う機会』『自分の将来と向き合える』『自分と見つめ合う機会』『自分を振り返る場』『自分自身と向き合う場』『自分の未熟さを体感できる場所』『自分の現在地を知れる越境体験ができる』『自分の具体的なキャリアと向き合うきっかけになる』『新たな自分との出会い』『自分のできるできないを今知ることができる』『自分との戦い』『自分を知る』といったフレーズが並んでおり、「自分と向き合う場」というのがチャレプロの特徴だと捉えている受講生が多いことが分かる。

「社会」を含む具体的な記述では、『社会を実践的に学べる』『一足先に社会に出れるチャンス』『社会で働くことのリアルが体験出来る場』『社会人として働ける』といったフレーズが見られるなど、「社会人経験ができる」というのも特徴の1つと捉えられているようだ。

そのほか「挑戦」「成長」「仲間」といった語を中心とした記述も多く見られたことから、それらも受講生にとってのチャレプロの特徴だと言える。

次に、「ご自身にとって、チャレプロはどんな場でしたか？」という質問に対する自由記述式回答結果をテキストマイニングで分析し、頻出語一覧を表9にまとめた。最も多く使われたのが「自分」という語で、具体的な内容に紐づく「場」「場所」などの語も多かった。

そこで、「場」や「場所」を含む具体的な記述を見てみると、『自分と向き合う場』『実習との対比の場』『助け合う場』『社会を知る場』『成長の場』『難しさを知った場』『自信を与えてくれた場』『好きなことを見極めることができた場』『活動を認めてくれる仲間がいる場』など様々であり、各受講生が自分なりの意味づけを行なっていることが分かる。

その一方で、自分と向き合う場や人生の転機を意味する記述をそれぞれ複数確認することができたため、チャレプロにはそのような側面もあると捉えても良いだろう。

表8：頻出語一覧（チャレプロの特徴）

出現回数	18	7	6	4
抽出語	自分	社会／場	挑戦	経験／出会い 成長／仲間

表9：頻出語一覧（チャレプロはどんな場）

出現回数	20	16	13	5	4	3
抽出語	自分	場	場所	社会／知る	向き合う	今／人生 仲間

2-7. チャレプロの捉え方に関するまとめ

まず、チャレプロへの挑戦動機は、「変化やチャレンジの場にしたい」「自己成長させたい」「学生のうちに社会を知りたい」という3点が主だったものであり、チャレプロを通じた学びや気づきについては、自己理解が深まった受講生が多く、言語化の重要性を痛感した受講生や、信頼関係構築のために必要となる姿勢を学んだ受講生もいることが分かった。

次に、チャレプロに対する受講生の満足度は非常に高く、自己理解が深まる点、財産とな

る経験ができる点、自己肯定感や成長実感が得られる点などが、その主な理由であることが分かった。また、チャレプロでの様々な経験が多くの受講生の現在に影響を与えており、チャレプロでの実践経験がそのまま現在の仕事に役立っている受講生が多く、仕事への向き合い方の面で影響を受けた受講生も多いことが分かった。

加えて、非常に多くの受講生がチャレプロを後輩たちにも勧めたいと考えており、その理由として、自己理解が深まる点、今しかできない貴重な経験ができる点などを挙げている。特に、成長意欲を持っている、もしくは自分を変えたいと思っている後輩に勧めたいと思っているようだ。

さらに、後輩に説明する前提では、チャレプロの特徴を「自分と向き合う場」「社会人経験ができる場」と捉えている受講生が多く、「挑戦」「成長」「仲間」などもチャレプロを特徴づけるキーワードであることが分かった。そして、各受講生が自分なりにチャレプロがどういう場であるかを意味付けしており、その内容は様々であったが、「自分と向き合う場」や「人生の転機」といったニュアンスで捉えている受講生も比較的多かった。

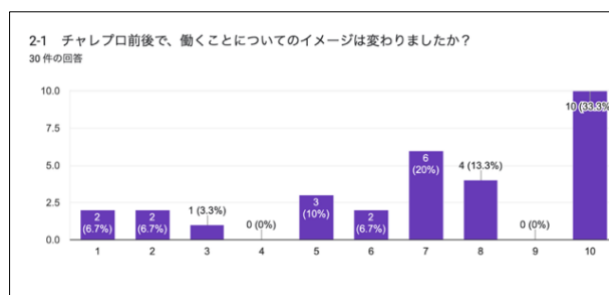
3. 職業観の変化について

3-1. 働くことに対するイメージ

まず、「チャレプロ前後で、働くことについてのイメージは変わりましたか？」という質問に対する回答を集計（図6）した。集計結果を見てみると、最も多かったのが10点満点（とても変わった）で全体の33.3%を占めていたが、その一方で、1-3点（変わらない）という回答も見られるなど、ややバラつきがあった。とはいえ、7点以上の回答が全体の2/3を占めていることから、働くことに対するイメージが変わった受講生が多いといえる。

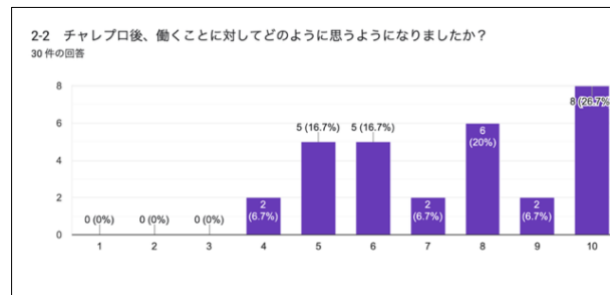
次に、「チャレプロ後、働くことに対してどのように思うようになりましたか？」という質問への回答結果を集計すると、図7のようになった。最も多かった回答が10点満点(26.7%)で、8点(20%)や6点(16.7%)5点(16.7%)がそれに次ぐ結果となった。このことから、チャレプロを通じて働くことが楽しみになった受講生も一定数いるものの、半数近くはどちらとも言えないという反応だということが分かった。

図6：働くことへのイメージの変化



(変わらない1 ← →10 とても変わった)

図7：働くことに対してどう思うようになったか



(嫌になった1 ← →10 楽しみになった)

3-2. 働くことに対する具体的な考え方の変化ときっかけ

まず、「チャレプロを通して、働くことへの考えは何がどのように変化しましたか？」という質問に対する記述式回答結果をテキストマイニングで分析する。表10に示す頻出語一覧をみると、圧倒的に多かったのが「働く」という語であった。その他には「楽しい」「思う」「チャレプロ」「業務」「考える」「自分」などの語が多く使われていた。

実際の記述では、『働くことの幅広さを感じた』『働くことの1部分しか見えていなかった』『色々な働き方があると実感した』『働き方の選択肢の多さに気付きました』など、働くことの幅広さを知ったという趣旨の意見が多かった。

また、『働くことは難しいけど楽しいこともある』『働くイメージは、目の前にちゃんと相手がいて、その人の困りごとを助けるために考え』『お金を稼ぐために働いている人ばかり出ないこと』『働く＝大変という考えだったが、会社の方針（想い）にさえ共感できればどんなに忙しくても楽しい』『働くの楽しみだな』『働くことが楽しみ・楽しいというイメージ』といった意見のように、働くことに対してポジティブな印象を持った受講生も多かった。

表10：頻出語一覧（働くことへの考え）

出現回数	22	7	5	4
抽出語	働く	楽しい 思う	チャレプロ／業務 考える／自分	お金／稼ぐ／仕事／人 難しい／変わる

次に、変化のきっかけについて、テキストマイニングで分析した。頻出語一覧（表9）をみると、「自分」が最も多く、「仕事」「人」「業務」などがそれに次いで多いことが分かる。

頻出語を含む実際の記述を見ると、『人それぞれ仕事への向き合い方が異なることを知ったから』『実際に仕事を見たこと』『一緒に仕事をする中で上辺じゃない大人の働く姿をみたこと』『素敵な人たちと環境との出会い、日々の業務の積み重ねを通して得られた』『自分の好きなことを仕事にしている人たちを身近に感じたこと』『受け入れ先の人の働き方を間近で見たこと』『説明会ではなかなか聞くことのない業務を通してキラキラしたもの裏には

社員の地道な業務があるのだと理解したこと』などの意見から、実際の現場で働く大人の姿を見たことで、働くことに対する具体的な考え方が変化した受講生が多いことが分かる。

また、『現在の自分がどのレベルなのかを教えてもらえたこと』『自分が望むお金にならなかった点』『自分 1 人でタスクを行ったことから』『自分の生活費を稼げるようになったこと』といった意見のように、実践を通じて自分の力試しをした結果、考え方に変化があったと捉える受講生も一定数いることが分かった。

表 11：頻出語一覧（変化のきっかけ）

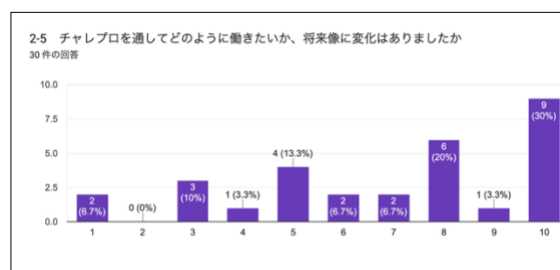
出現回数	8	5	4	3
抽出語	自分	仕事／人	業務	感じる／見る 思う／実際

3-3. 働き方に対する将来像の変化

「チャレプロを通してどのように働きたいか、将来像に変化はありましたか」という質問に関する回答結果（図 8）を見てみると、10 点満点（30%）が最も多く、8 点以上が半数を超えていることが分かった。その一方で、1-3 点という変化なしという回答が 16.7%を占め、4-6 点という層が 23.3%を占めていた。

これらのことから、将来像の変化について変化した受講生が多いものの、その感じ方には比較的差があると言える。

図 8：働き方の将来像に変化はあったか



(変化しなかった 1 ← → 10 とても明確になった・とても変化した)

3-4. 職業観の変化に関するまとめ

まず、チャレプロを通じて、働くことへのイメージが大きく変わった受講生は非常に多かったものの、働くのが楽しみになったかどうかという面では差があることがわかった。

次に、働くことへの具体的な考え方の変化として、働くことの幅の広さを理解した受講生、働くことに対してポジティブな印象を持つようになった受講生が多く、実際の現場で大人が働く姿を見ることができたことが、その主な理由のようだ。

働き方に対する将来像の変化の面としては、ポジティブな反応が多いものの、反応にはバラつきがあることが分かった。

4. チャレプロを通じた成長実感について

4-1. 成長実感とその理由

まず、「チャレプロを通して、自分は成長したと思いますか？」という質問に対する回答結果（図9）を見ると、10点満点が全体の46.7%、7点が33.3%を占めるなど、非常に多くの受講生が、チャレプロを通じて成長実感を得ていると言える。

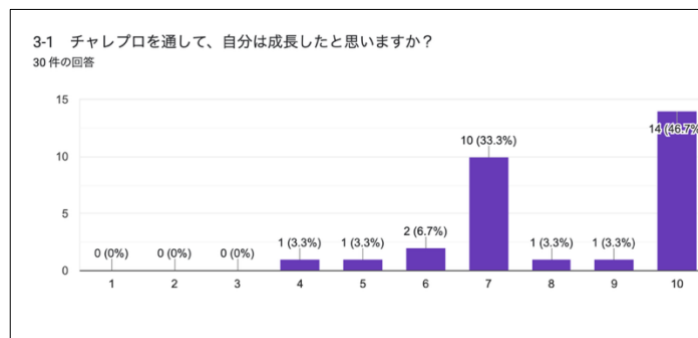
次に、その理由に関する自由記述式解答結果をテキストマイニングで分析し、傾向を把握する。頻出後一覧を表12に、抽出語・共起ネットワークを図10に示す。

最も出現回数の多かった「自分」という語が含まれている具体的な記述内容から、受講生の多くが自分自身と向き合った結果として成長実感を得ている様子がわかった。また、次に出現回数の多かった「思う」という語が使われた具体的な記述は、『主体性が生まれたと思う』『考えるくせが身についたと思います』『自分という人間の輪郭がハッキリしたと思う』『やり抜くという点で成長したと思う』『責任感を高めたと思う』などで、具体的な成長内容を掲げて成長理由を説明するケースが多かった。

一方、サブグラフ06の「挑戦」に関する記述では、『挑戦に躊躇することが少なくなった』『挑戦のハードルが下がった』『今まで以上に挑戦へのハードルが低くなった』『挑戦へのハードルが下がり、楽しめるようになったから』など、挑戦のハードルが下がったことへの言及が目立っていた。

サブグラフ02の「考える」に関する記述では、『一生懸命考えてインターンを過ごしていた』『言う通りにするではなく、考えるくせが身についた』『相手の視点で物事を考えるように意識しだした』『与えられるのを待つのではなく自分で考えて行動を起こすように』など、「思考と主体性」が自己成長のポイントになったと捉えている受講生も多いようだ。

図9：成長実感

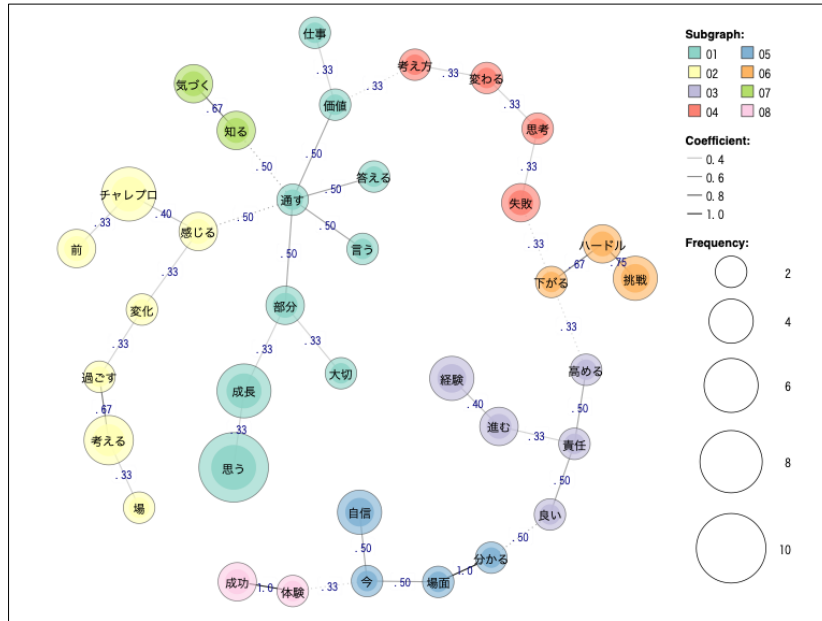


(成長したとは思わない1 ← →とても成長したと思う)

表12：頻出語一覧（成長した理由）

出現回数	16	10	6	5	4
抽出語	自分	思う	チャレプロ 成長	考える	経験／自信 挑戦

図 10：抽出語・共起ネットワーク（成長した理由）



4-2. チャレプロを通じた能力伸長

ここでは、「チャレプロを通して、自分のどんな力が伸びたと思いますか？」という質問に対する自由記述式回答結果をテキストマイニングで分析する。頻出後一覧を表 13 に示す。最も多かった抽出語は「力」、次に多かったのが「自分」という語であり、ここからは目立った傾向は見られなかったが、能力の表現に関して造語でも可という条件をつけていたことを踏まえると、「力」の左側にある語がポイントになると考えられる。

そこで、実際の記述内容を見てみると、『周りを見る力』『チャレンジ力』『怖がらない力』『自分と向き合い続ける力』『自分に期待しすぎない力』『言語化できる力』『自らを客観視しようとする力』『瞬発力』『やりきる力』『頼る力』『縁や経験を力に変える力』『企画力・先回り力・決断力』『食欲に挑戦する力』『継続力』『クリエイティブ力』『とりあえずやってみる力』など、非常にバラエティに富んだ内容であった。

つまり、各受講生がチャレプロを通じて自分自身と向き合うことで、それぞれが自分なりに能力伸長を実感していることがわかる。

表 13：頻出語一覧（伸びた能力）

出現回数	14	7	3
抽出語	力	自分	見つかる/行動/今 思考/自己/対応

4-3. 五つの能力に関する成長実感

筆者らがチャレプロを通じて育まれると仮定した5つの能力（失敗する力、当事者想像力、言語化力、やり抜く力、巻き込む力）に関して、受講生自身が成長実感を得ているかどうか、アンケートの回答結果（表14）をもとに傾向を把握する。

失敗する力については、10点満点が最も多く全体の33.3%を占め、次いで8点(23.3%)が多かった。成長実感を強く感じたと考えられる8点以上でまとめると、全体の73.3%を占める結果となり、失敗力の面で成長実感を得た受講生がかなり多いと言える。

当事者想像力についても10点満点（30.0%）が最も多く、9点と8点がそれぞれ23.3%を占めていた。8点以上でまとめると、76.7%を占めており、当事者想像力の面でも成長実感を得た受講生がかなり多いことが分かる。

言語化力については、8点（26.7%）が最も多く、次いで10点と7点が20%を占めた。8点以上でまとめると56.7%、4-7点のどちらとも言えない層をまとめると43.3%となり、言語化力については、成長実感の面で差が見られることが分かった。

やり抜く力については、10点満点が最も多く40%を占め、8点がそれに次いで23.3%を占める結果となった。8点以上でまとめると、全体の76.7%となり、やり抜く力の面で強い成長実感を得た受講生がかなり多いと言える。

巻き込む力について見てみると、最も多かったのが10点満点で46.7%を占めたものの、8点以上では63.3%にとどまり、4-7点が33.3%とやや多い結果となった。

以上のことから、失敗する力、当事者創造力、やり抜く力については、多くの受講生が強い成長実感を抱いているが、それらと比べ、言語化力や巻き込む力については、強い成長実感を持つ受講生の割合がやや少ないことが分かった。

表14：5つの能力の伸長について

	向上したとは思わない←			→とても向上したと思う							合計	平均
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
失敗する力	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (3.3%)	0 (0.0%)	3 (10.0%)	4 (13.3%)	7 (23.3%)	5 (16.7%)	10 (33.3%)	30 (100.0%)	8.37
	0.0%			26.7%				73.3%				
当事者創造力	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (10.0%)	4 (13.3%)	7 (23.3%)	7 (23.3%)	9 (30.0%)	30 (100.0%)	
	0.0%			23.3%				76.7%				
言語化力	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (13.3%)	3 (10.0%)	6 (20.0%)	8 (26.7%)	3 (10.0%)	6 (20.0%)	30 (100.0%)	7.70
	0.0%			43.3%				56.7%				
やり抜く力	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (3.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (3.3%)	5 (16.7%)	7 (23.3%)	4 (13.3%)	12 (40.0%)	30 (100.0%)	
	3.3%			20.0%				76.7%				
巻き込む力	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (3.3%)	0 (0.0%)	4 (13.3%)	3 (10.0%)	3 (10.0%)	5 (16.7%)	0 (0.0%)	14 (46.7%)	30 (100.0%)	8.07
	3.3%			33.3%				63.3%				

4-4. 人生に対するチャレプロの影響度

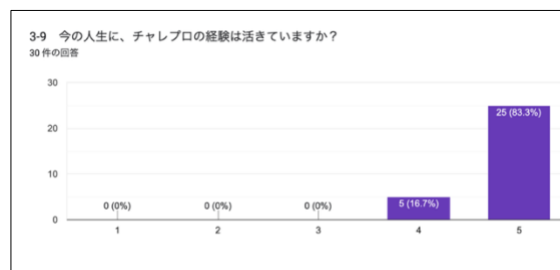
まず、「今の人生に、チャレプロの経験は生きていますか？」という質問に対する回答結果を図 11 に示す。その結果を見ると、全体の 83.3%が 5 点満点を選んでおり、残りは 4 点を選択していた。このことから、全ての受講生が、自分自身の人生にチャレプロの経験が活かされていると捉えていることが分かる。

次に、その理由に関する自由記述式回答結果をテキストマイニングで分析し、傾向を把握する。頻出語一覧を表 15 に、抽出語・共起ネットワークを図 12 に示す。

最も多く出現した語は「チャレプロ」で、「自分」「今」「思う」「経験」などの語も多く出現していた。一見すると具体的な特徴は見出しにくいですが、「チャレプロ」を含む具体的記述内容から、その理由が分かった。具体的には『チャレプロで身についた力なので』『チャレプロの経験が活かされたから』『チャレプロに参加していなかったら無難な選択肢を選んばかりで色々な世界を見ることができなかった』『チャレプロがあったから物理的にも精神的にも今の自分があるから』『チャレプロで得た哲学を活かして、チャレプロで身につけたチャレンジ精神で頑張っている』『チャレプロを通じて、若いうちはハードな働き方をしたいという考えに変わった』『チャレプロがあったから、自分に自信をつけることができた』『チャレプロを通じて見つけた仕事』『チャレプロの延長で仕事をしているから』『チャレプロがそのまま今の仕事になったから』『チャレプロに参加したから』『チャレプロがあるから』『チャレプロが今の自分の人生のスタート点』といったように、チャレプロで身につけた能力や考え方、チャレプロと現在の仕事との直接的な接点、チャレプロの存在自体などが、主な要因となっていることが分かる。

また、「経験」という語を含む具体的記述として、『後悔した経験があったため』『やり遂げた経験』『あの時の経験が生きてると強く実感』『たくさんの経験が学びになった』といったものがあることから、チャレプロの現場で経験したことが大きな影響を与えているという側面もありそうだ。

図 11：今の人生にチャレプロの経験が活かしているか

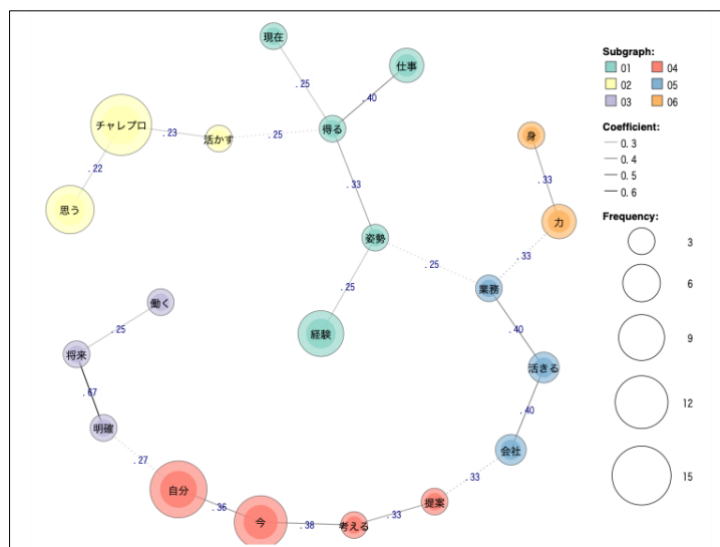


(生きていない 1 ← → 5 とても活かしている)

表 15：頻出後一覧（チャレプロ経験が活かしている理由）

出現回数	16	14	12	10	9	5	4
抽出語	チャレプロ	自分	今	思う	経験	力	会社 活きる

図 12：抽出語・共起ネットワーク（チャレプロ経験が活かしている理由）



4-5. 成長実感に関するまとめ

まず、ほとんどの受講生が自分自身と向き合うことによって、チャレプロを通じた成長実感を得ていたことが分かった。その理由については、具体的な成長内容を掲げて説明するケースが多かったが、挑戦へのハードルが下がった点や、考える習慣と主体性が身についた点を自己成長のポイントだと捉えている受講生が多いことが特徴的であった。

次に、チャレプロで伸びた能力は、非常にバラエティに富んでおり、各受講生が現場での経験を踏まえた独自の能力伸長を実感していること、5つの能力に対する成長実感については、言語化力と巻き込む力に対する強い成長実感を持つ受講生が、他の能力よりやや少ないことが分かった。

また、人生に対するチャレプロの影響については、全ての受講生が活かされていると捉えており、その理由として、チャレプロで身につけた能力や考え方、チャレプロと現在の仕事との直接的な接点、チャレプロでの現場経験が影響していると捉える受講生が多いことが分かった。

5. おわりに

5-1. チャレプロ 6-10 期生へのアンケート調査結果のまとめ

本研究では、チャレプロ 6-10 期生に対するアンケート調査結果から、チャレプロに対する様々な側面に対して受講生たちがどのように捉えているのか、その傾向について考察することで、チャレプロを通じた教育効果を把握した。その結果を以下にまとめる。

第 2 章では、チャレプロの捉え方に関する特徴を把握した。チャレプロへの主な挑戦動機は「変化やチャレンジの場にしたい」「自己成長させたい」「学生のうちに社会を知りたい」という 3 点で、チャレプロを通じて自己理解を深めた受講生が多く、言語化の重要性や信頼関係の構築に必要な姿勢について学んだ学生もいることが分かった。

第 3 章では、チャレプロを通じた職業観の変化について、その傾向を把握した。その結果、働くことへのイメージが大きく変わった受講生は非常に多かったものの、働くことが楽しみになったかどうかという面では捉え方に差があることが分かった。また、具体的な変化として、働くことの幅広さを理解した受講生、働くことに対してポジティブな印象を持つようになった受講生が多く、その理由として、実際の現場で働く大人の姿を見ることができた点を挙げる受講生が多かった。

第 4 章では、チャレプロを通じた成長実感について、特徴を把握した。まず、ほとんどの受講生が自分自身と向き合うことで自身の成長を実感しており、その理由として、挑戦へのハードルが下がった点や、考える習慣と主体性が身についた点を挙げる受講生が多かった。次に、チャレプロで伸びた能力については、受講生がそれぞれ独自の能力伸長を実感していたことが特徴的である。また、5 つの能力のうち、言語化力と巻き込む力については、他の 3 能力と比べて、強い成長実感を持つ受講生がやや少なかった。さらに、人生に対するチャレプロの影響度は非常に強く、そこには、チャレプロを通じて身につけた能力や考え方、現在の仕事との接点、現場経験などが大きく影響していることが分かった。

5-2. 本学アントレプレナーシップ教育への示唆

ここでは、チャレプロがモデルケースになるという仮定のもと、アントレ PG の充実に向けて参考になりそうなポイントについて考察する。

前節の内容から、チャレプロでは、意欲的（チャレンジ、変化、成長）な学生が、比較的ハードルの高い実践を通じて自分自身と向き合うことで、自己理解を深めただけでなく、挑戦へのハードルが下がり、考える習慣と主体性が身についたことで、独自の成長実感を得ている様子が伺える。

これらのことを踏まえて、対象とする学生像、実践内容、環境づくり、サポート体制等について考えてみたい。

まず、初期段階では、何かしらのチャレンジをしたい、自分を変えたい、成長したいと思っている学生が主な対象になりそうだ。そういう学生たちから様々な動きが生まれ、ロールモデルとなり、新たな学生を巻き込む流れが生み出せると理想的だと考えられる。

次に、実践の部分については、アントレ PG とチャレプロでは前提が異なるため、柔軟に捉える必要がありそうだ。また、挑戦へのハードルを下げるための様々な工夫も必要になってくると考えられる。

その1つが環境づくりであり、チャレプロを運営した経験を踏まえると、例えば、挑戦することが当たり前だという雰囲気作りや、失敗することは怖くないというマインドの醸成などが挙げられるが、それにはかなりの時間を要することが予想される。加えて、そのためには、学生と教員との日常的な接点を増やしつつ、両者の関係性を構築していくことも求められる。また、例えば、学生たちに対する各種情報提供によって、実践する機会との遭遇回数を増やすこと、実践者の話を聞く機会、その活動に触れる体験する機会をできるだけ多く準備することなども環境づくりの1つだと考えられる。これは、(一社)フミダスの濱本代表が本学の教員向け FD 研修にて、アントレプレナーシップ教育に関する講演を行った際に述べていた「熱を浴びせ続ける」というイメージにも近い。

サポート体制については、チャレプロを通じた教育効果を担保する上で重要な鍵を握る要素の1つとなった、振り返り研修の実施が効果的だと考えられる。研修を通じて自分自身と徹底的に向き合う場が重要な意味を持っていることは、学生たちの反応からも理解できる。そのため、アントレ PG でも、そのような機会をどのような形式で提供するか、検討する価値があると考えられる。

以上であるが、ここで触れたようなことも、次年度からのアントレ PG の運営に活かしていければと考えている。

参考文献

- 1) 片岡寛之「起業体験や長期インターンシップがもたらす教育効果に関する考察-チャレンジプログラム経験者へのアンケート調査結果をもとに」地域創生学研究(5), pp. 103-121, 2022年3月
- 2) 片岡寛之「地域創生学群チャレンジプログラムのこれまでとこれから」地域創生学研究(8), pp. 15-26, 2025年3月
- 3) 文部科学省科学技術・学術政策局産業連携・地域振興課「アントレプレナーシップ教育の可能性～大学生中心から高校生等へ～」教育委員会月報 2023年5月号, pp. 1-3, 2023年5月
- 4) 樋口耕一：テキスト型データの計量的分析-2つのアプローチの峻別と統合-, 理論と方法(数理社会学会)19(1), pp. 101-115, 2004
- 5) KH Coder Web サイト (<https://kncoder.net/>)
- 6) 立命館大学 Web サイト
(<http://www.ritsumei.ac.jp/research/radiant/language/story3.html/>)
- 7) 北九州市立大学 Web サイト・アントレプレナーシップ教育プログラム
(<https://www.kitakyu-u.ac.jp/department/education/entrepreneurship.html>)